

会 議 議 事 録

会 議 名	令和5年度 第2回 学校関係者評価委員会	専門学校東京工科自動車大学校
開催日時	令和5年11月16日（木） 18:00 ～ 19:30	
会 場	専門学校東京工科自動車大学校 124教室	
参 加 者	委員(敬称略)	5名 阿部 豪気／木村 友子／舟橋 正晴／森田 憲／嶋田 章二
	事務局	3名 佐藤 康夫／園田 幸祐／多賀 大真
会 議 録	<p>1. 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催に向けて佐藤校長より挨拶が行われ、職業実践専門課程についての概要と開催目について説明があった。 <p>2. 委員会成立の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員7名、出席5名、委任状2名)) <p>3. 議長及び書記選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本委員会の成立を受け、事務局より阿部 豪気委員が議長として、木村 友子委員を書記として推薦し承認が得られた。 <p>4. 議事</p> <p>①前回議事録確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園田副校長より前回議事に関して説明がされ、各委員からの承認を受けた。 <p>②2023 年度の取組に関する進捗状況の報告</p> <p>佐藤校長より以下の進捗状況の報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度の就職内定状況 ・2023 年度の在籍・出席状況 ・2024 年度の入学に関するの募集状況 ・2023 年度企業連携実習に関する状況 ・2023 年度の FD・SD(教職員の能力開発・研修)の実施状況 <p>③その他、報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤校長より「長野教育センター」の運用停止についておよび自動車整備士資格の変更及び一種養成施設施行規則の改定について、説明があった。 <p>④自己評価報告のスケジュール説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園田副校長より2023年度の自己評価報告の概要とスケジュールの説明があった 	

⑤意見交換

・【森田委員】

長野教育センターの運用停止については、学校カリキュラムの中の財産であり無くなるのは寂しいが、また新しいものを構築していただきたい。

資格の変更や規則の改定については、始まってみないと動けないものもあり、その前にもっとやるべきことがある。例えば、期待されるメカニックが定着しないことは問題で、改善すべくなにか改革をしなければならない。

・【嶋田委員】

当社の例をあげると、ここ数年外国籍の方を多めに採用していることも影響していると思うが、従業員の定着率は上がってきている。

教育に関しても以前は、集合教育だったものをオンライン研修で勤務時間内に受けられるように整備してきた。

また、評価に関しては、腕の良いメカニック程、利益は少ないものもあるが地道な作業をコツコツとして積み重ねていく傾向があり、そういった人材を評価する上で、個人ではなくチーム・お店として評価していくように改革を進めている。

・【舟橋委員】

当社としても、2019年に融合し、その直後は離職が多かった。当初は、給与・待遇の格差が原因かと考えていたが、若年層の志向の変化が原因であると感じている。入社してから定年まで続けるという考えの方が少なくなっている印象がある。また、結婚・出産といった一つの人生の分岐点も重なって、離職の選択をする方も多い。

留学生に関しては、採用時から将来的に母国に戻ることを前提に採用し、母国の支社のディーラーで働いてもらえればよいかと。

日本人においても競合他社との人材の引っ張り合いになっているので、その辺りも含めて模索している段階である。

・【木村委員】

保護者の立場として、Japan Mobility Show への参加は本人もテレビで見るとは違う視点で見学するなど、非常に楽しんでおり、良いイベントだったと感じる、学園祭もとても楽しみにしており、仮装や出店、腕相撲大会なども楽しそうにしていた。

長野教育センターについては、入学時から楽しみにしていたが、代替の研修でも満足していた様子であった。

・【阿部委員】

社員教育の中で気になっているのは、期待値の高い方が離職してしまうことである。日々のルーティンワークが続く中、成長を感じられなくて、自身を省みることのできる人材ほど辞めている印象がある。どうにか成長を感じさせるために、早い段階で、整備主任者にしたり検査員の資格を取らせたりするようシフトしている。

また、留学生については「言葉の壁」がネックになってくる部分であり、そこがクリアできればより高度なレベルの話もできるので、非常に優秀な留学生が入学予定ということもあり期待している。

5. 閉会の辞

佐藤校長および園田副校長より閉会の挨拶が行われた。

以上

会議風景

